

## 第2章 京都丹波地域とは(地域特性)

### (1) 現状認識・強み

#### ■ 豊かな自然・景観と便利さが調和した地域

京都丹波地域は、京都府のほぼ中央部に位置する亀岡市、南丹市及び船井郡京丹波町の地域を指し、東は京都市と滋賀県高島市に、西は福知山市、兵庫県篠山市及び大阪府豊能郡に、南は大阪府高槻市及び茨木市に、北は綾部市及び福井県大飯郡にそれぞれ接しています。

観音峠から南丹市美山町にかけては、京都府の分水嶺となっており、東部及び南部は桂川を経て大阪湾に、北部及び西部は由良川流域で日本海に注いでいます。

北部地域は、東部に急峻な山間地域が連なり、いわゆる「京都の屋根」が形成され、西部にかけて高原地域となっており、芦生原生林等の緑豊かな自然環境に恵まれています。

南部地域は、桂川流域に沿って平坦地が開けており、亀岡盆地をはじめとする広大な耕作地が広がっています。また、京阪神地域の大都市域にも近接しており、住宅地の開発や企業立地が進展してきています。

近年のJ R山陰本線(嵯峨野線)や京都縦貫自動車道等の道路交通網の整備、特に平成25年4月に名神高速道路と京都縦貫自動車道が繋がったことにより、京阪神地域とのアクセスが飛躍的に向上したところです。自然や景観の良さと交通利便性を併せ持つ強みをいかした発展が期待されます。



京都縦貫自動車道(平成27年7月に全線開通予定)

#### ■ 豊富な地域資源(教育・文化・スポーツ・観光等)に恵まれた地域

京都丹波地域には、城下町や集落等ではくまれてきた郷土文化・伝統芸能・伝統技術・祭や文化財、優れた食材、豊かな自然環境・景観、希少生物の生息等、「世界でひとつ」のキラリと光る地域資源が豊富にあります。また、この地域には、温泉施設等宿泊もできる集客施設もあることから、こうした地域資源をいかしたフィールドワーク等の教育体験旅行の展開も期待されます。

学校教育では、京都丹波地域独自の南丹地区幼小中高等連絡協議会が組織化されており、学校種別間を越えた連携や取組が定着しています。この地域には、多様な特色を持つ府立学校をはじめ、大学、大学校等の教育資源があることから、それぞれの良さを引き出すような取組が一層進むことが期待されます。後継者育成の課題も含め、継承すべき地域文化を、これからはしっかりと守り育てていくとともに、地域資源を相互に結ぶ人・組織のネットワークづくり、地域の潜在力を引き出す人材の育成等を進め、管内に点在する小規模ではあるが個性的で奥の深い魅力スポットや自然をいかしたアウトドアスポーツ等を観光資源として、地域内外へ効果的に情報発信していくことが求められます。

また、近年、地域の人々の暮らしと自然環境とのかかわりが薄れつつある中、京都丹波地域においては、地域の努力によって、「美山かやぶきの里」等の日本の原風景が維持・保存されてきました。国内外からの来訪者が増える中、人々に安らぎやいやし、憩いを与えてくれるこうした自然の風景が観光資源としても活用されています。

#### ■ 京都の交通の要衝・結節点

京都丹波地域は、京都府と兵庫県にまたがる“丹波”の南部を占める地域です。古代の丹波国は、現在の京都府北部をも含む大きな国でしたが、奈良時代に北部を丹後国として分離し、京都府中部と兵庫県東部からなる丹波国が誕生しました。

“丹波”は、大きく分けると口丹波、中丹波及び西丹波の3地域になりますが、京都丹波地域はこのうち“丹波”の

入口を意味する口丹波に当たります。口丹波には、丹波国の国府や国分寺が置かれ、政治・文化の中心として丹波国を支えるとともに、こうした文化を、川や街道のネットワークによる交流・連携を通じて、「京の都」や「大阪」、「丹後」に伝える役割を果たす交通の要衝でもありました。

京都丹波地域では、丹波高原を分水嶺として、南東部に桂川が流れ、やがて淀川と合流して大阪湾に流れ込み、北西部には由良川が流れて日本海に注いでいます。これらの川は、人や物資を運ぶ重要な交通手段であり、また、豊かな自然や食、美しい景観を与えてくれるものでもありました。川の交通とともに重要な交通手段であったのが、陸のネットワークである街道です。山陰古道、山陰道、篠山街道等には多くの人や物資・文化が行き交い、街道沿いは宿場町としてにぎわい、悠久の昔から、京都の交通の要衝、また、京阪神地域とを結ぶ結節点としての役割を担ってきたところ です。

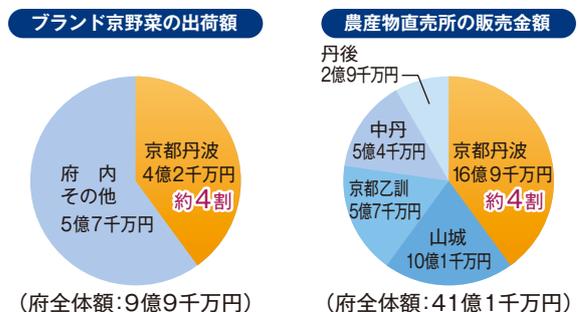
### ■ 整備される新たな交流基盤の活用に期待が集まる地域

京都縦貫自動車道等高速交通ネットワークの整備や収容人数25,000人規模の専用球技場である京都スタジアム(仮称)、丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター(仮称)・宿泊棟等の大規模スポーツ施設の建設や新規国定公園の指定等、地域の活性化を支え、交流を促す基盤整備が整いつつあります。こうした新たに整備される基盤をいかした地域づくりや活力ある地域づくりが求められています。

### ■ 環境にやさしい農業のもと、食料供給がなされる地域

京都丹波地域は、米、野菜及び畜産を中心とした府内有数の産地となっており、みず菜、壬生菜、紫ずきん等の「ブランド京野菜」の出荷額は府全体の約4割を、畜産の生産額では、府内の約5割を占めており、中でも「丹波ブランド」として黒大豆、大納言小豆、栗、マツタケ等は、日本を代表する質の高い農林産物の生産地として有名です。

また、都市部に近接している立地から、農産物直売所の集客力も高く、開設数では府内の1割であるにもかかわらず、販売金額では約4割を占めており、府民生活にとっても重要な食料供給地域となっており、地域の重要な産業として、都市住民との交流を図りながら、生産者の顔が見える安心・安全な農畜産物の供給や、環境と調和した持続可能な農林業の展開等にも取り組まれています。



### ■ 未曾有の危機を経験・克服し、安心・安全を強く意識する地域

平成16年の旧丹波町(現在の京丹波町)での高病原性鳥インフルエンザの発生、また、京都丹波地域は分水嶺と大小の河川、多くの山間地を持つ地形から、水不足や洪水・土砂崩れ等の自然災害が起りやすく、平成25年の台風18号による災害、平成26年の豪雨災害等を経験した地域であり、常に風水害の発生に対する備えが必要です。

管内の主な危機事象			
年 月 日	災害の種類	災害の原因	主な関係地域・被害地域
平成7年1月17日	地震	兵庫県南部地震	京阪神地域全域
平成10年9月21日~23日	風水害	台風7・8号	旧美山町、京都市、舞鶴市
平成12年2月15日~3月2日	大雪	降雪	旧和知町、福知山市、舞鶴市
平成13年8月21日~22日	風水害	台風11号	旧園部町、綾部市
平成15年5月16日~21日	健康危機	重症急性呼吸器症候群(SARS)	亀岡市、京都市、宮津市など
平成16年2月27日~4月13日	家畜伝染病	高病原性鳥インフルエンザ	旧丹波町
平成16年10月20日~21日	風水害	台風23号	亀岡市以北の府全域
平成24年7月15日	風水害	豪雨	亀岡市
平成24年8月13日~14日	風水害	豪雨	宇治市など
平成25年9月15日~16日	風水害	台風18号	京都市以北の府全域
平成26年8月9日~10日	風水害	台風11号	京都市以北の府全域
平成26年8月15日~16日	風水害	豪雨	京都市以北の府全域

## ■ 農業分野への参入や連携を模索する新たな企業が立地する地域

京都丹波地域では、京阪神地域と近接していることや恵まれた自然環境等の様々な地域特性をいかして、京都府及び地元市町が企業誘致に積極的に取り組んだ結果、多くの企業が立地、操業しています。また、新たな生活文化の創造と産業の活性化をめざす新産業拠点として“京都新光悦村”への企業立地も進み、既に9社(平成26年10月現在)が操業するとともに、新たな工場用地の造成・販売も進んでいます。

こうした中、担い手不足が深刻化している農業分野に企業が参入や連携を模索することは、雇用の確保や遊休農地の有効活用という側面から見ても極めて効果的かつ重要なことです。

農業分野への参入をはじめとする新たな企業誘致を加速的に進めるとともに、農産物の加工、販売等農業分野や福祉分野での起業、観光産業、地域資源をいかしたコミュニティビジネス等に取り組む地域密着型の小規模ビジネスも支援しながら、地域における雇用の確保と経済の活性化を図っていくことが大切です。

農業参入企業一覧(南丹管内)

市町村	農業法人名
亀岡市	(株) マナファーム
	(合) 一志アグリシステム
	(株) 三煌アグリブレーションシステム
	(株) 小倉山荘ファーム
	(株) 蕪村菴ファーム
	(株) スプレッド
	京扇産業(株)
	(株) 京都ハバナエノの里
南丹市	益田産業株式会社
	(株) 大成産業
	太陽機械工業(株)
京丹波町	(株) 八百一の郷

## ■ 地域で支え合う“共助”の気風のもと、行政との協働が進行する地域

コミュニティ(地域社会)や世代間交流等身近な地域のネットワークは全国的に弱まり、地域のきずなが薄れつつありますが、京都丹波地域では今でも多くの地域で、地域のつながりや共助の気風が残され、地域の安心・安全や文化・伝統等を支えるとともに、近年、行政と地域住民が協働した取組も進んでいます。

人と人とのふれあいを大切にしてきた京都丹波地域では、行政サービスの充実やだれもが他人を思いやる「我がこと意識」を持った、物心両面からのバリアフリーなまちづくりと合わせて、地域の皆さん自らが主体となって参加・活動する場づくり等を通じ、地域社会が一体となった見守り・支え合いの仕組(共助)をさらに発展させるとともに、これらの取組に行政もしっかりとかかわり、地域の皆さんと共に汗をかく協働の仕組づくりを推進することによって、「まちも人も優しく、たくましい地域づくり」を進めていくことが大切です。

地域力再生プロジェクト支援事業交付金交付実績等

地域	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
京都丹波	71	73	81	99	108	99	65

※平成22、23、25年度に実施した雪害・台風・災害支援事業は計上していない。

## (2) 地域課題と問題点

### ■ 安心・安全なまちづくり

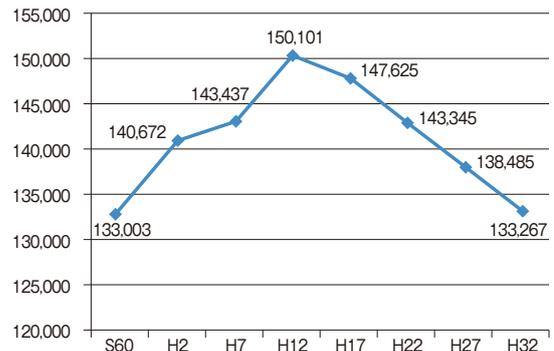
近年、集中豪雨が多発し、京都丹波地域においては、平成25年の台風18号により甚大な被害を受けました。また、自然災害だけではなく、火災や犯罪、感染症、原子力災害等を含む様々な危機に対応できるよう、道路ネットワークの確保や河川改修の整備はもとより、ソフト対策も合わせた取組により、災害に強い地域づくりを進めていくことが必要です。

### ■ 少子高齢化と若年者人口の減少に伴う担い手不足

京都丹波地域では、北部地域を中心に高齢化が進んでいます。地域全体でも高齢化率(65歳以上の人口の割合)は、平成26年3月31日現在で27.5%と京都府平均の25.7%を上回っています。今後も高齢化率は上昇し、平成42年には36.1%となることが予測されます。また、管内の20歳～39歳の女性人口はこの10年間で約15%減少し、若年者人口の減少も問題となっています。

これに伴い、農業、製造業、サービス業等各産業における「働き手」の確保の問題をはじめ、京都丹波地域で守り伝えられてきた文化・伝統の「担い手」不足の問題が顕在化していますが、一方で、様々な分野での経験とノウハウを蓄積し、働く意欲を有している高齢者をはじめとする地域人材が豊富であり、こうした地域人材の能力を次世代に引き継ぐために、世代間交流はもちろんのこと、他地域との交流拡大や異業種との積極的な連携等を通じた取組を進めていくことが必要です。

管内人口の推移(推計)



出生数(単位:人)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
亀岡市	796	778	724	765	766	768	722	744	717	676
南丹市	244	225	227	237	227	206	233	233	237	233
京丹波町	106	92	88	82	96	72	81	82	69	74

資料 人口動態統計(府健康福祉総務課)

市区町別、年齢(20～39才)女性人口推移(単位:人)

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年		平成12～22減少率
府計	350,857	369,371	379,802	370,592	337,257	京都府	△11.2%
亀岡市	11,340	12,355	12,712	12,197	11,155	亀岡市	△12.2%
南丹市	4,028	4,245	4,154	3,925	3,453	南丹市	△16.9%
京丹波町	1,672	1,739	1,639	1,414	1,205	京丹波町	△26.5%
管内計	17,040	18,339	18,505	17,536	15,813	管内合計	△14.5%

※南丹市及び京丹波町の平成17年以前数値は、各市町の合併前町の合計数値  
 ※国勢調査(総務省統計局)の数値による ※数値調査日は各年の10月1日  
 参考: <http://www.pref.kyoto.jp/tokei/yearly/tokeisyo/tsname/tsg0206.html>

管内高齢化率の推移(単位:%)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
亀岡市	20.4	20.7	21.5	22.8	24.2
南丹市	29.8	29.8	30.2	31.0	31.9
京丹波町	33.6	33.8	34.2	35.4	36.9
管内	24.1	24.4	25.0	26.2	27.5

## ■ 地域的な一体感の醸成と地域資源の活用

京都丹波地域は、様々な魅力や豊富な資源を有していますが、気候・風土・産業構造等が異なるこの地域の一体感を何によって醸成し、共有するのか、地域としての共通理念を掲げ、共通の目標に向かって、どのように取り組んでいくのかという課題があります。

その課題を克服するため、「京都丹波ビジョン」では、「京都丹波」のブランド化を戦略目標に掲げ、地域としての将来のあるべき姿や取組の方向性を関係団体や地域の皆さんと共有して、連携・協働し、地域全体が同じ方向に向かって取り組んでいくことが必要です。

また、高速ネットワークや様々な交流基盤が整う中、豊かな自然や食、大都市圏との隣接といった地域の強みや特性をいかした地域づくりを効果的に展開していくことが必要です。

## ■ 交通網の整備や景観保全(産業振興・観光戦略との連携)

京都丹波地域は、古来、地理的には京都府の背骨に位置し、「京の都」と「丹後」のみならず、阪神地域との交通の要衝として重要な役割を担ってきました。京都縦貫自動車道が全線開通し、地域間のさらなる交流・物流の大動脈が完成する中、生活道路や災害時の緊急輸送道路等の整備を進めていくことも重要です。

日本風景街道・京都府景観資産の登録状況

日本風景街道	美山かやぶき由良里街道	南丹市
	西の鯖街道	南丹市他
京都府 景観資産	日本の原風景・南丹市美山 かやぶき集落郡	南丹市
	琴滝	京丹波町
	大野ダムが形つくる 水辺景観	南丹市

さらに、京都丹波地域には、多くの名所・旧跡をはじめ、次世代に守り伝えるべき、すばらしい景観が数多く残されています。「開発」と「保存」という2つの課題の間で調和のとれた取組を進めることが重要になっているとともに、こうした取組を、地域の産業振興や観光振興等と絡ませながら進めていくことが必要です。

## ■ 都市部と農山村部が共存する中で社会資本整備の格差の解消と特性としての活用

京都丹波地域は、都市部と農山村部が同居する地域であり、高速道路をはじめとする交通の利便性や携帯電話の電波受信等情報通信手段等の生活環境面等での地域間格差も存在します。こうした社会資本整備の格差を少なくする一方で、逆に地域の特性として活用し、農山村に住む人の暮らしやすさや、訪れたり移住を望む人にとっての利便性は確保しながら、地域の価値に理解や誇りを持ってもらえるように変えていくことが大切です。

また、東日本大震災を契機とした農産物の放射能汚染への懸念や相次ぐ食品やメニューの偽装を背景に、人々の安心・安全な食への関心が非常に高まっています。また、平成17年2月には「京都議定書」が発効するとともに、平成21年の「CO<sub>2</sub> 25%削減」という国際公約等により、地域でも森林活用による二酸化炭素削減等の取組が強く求められています。環境保全型農業やバイオマスを活用した地球環境にやさしい取組を推進するとともに、都市住民との交流を図りながら、生産者の顔が見える安心・安全な農畜産物の供給や、環境と調和した持続可能な農林業の展開、環境保全や防災面で森林の多面的機能を一層アピールしていくことが必要です。

## ■ 学校種別間連携や多様な高等教育機関の集積の活用

京都丹波地域では、子どもたちの学力の向上や心の教育充実の取組をはじめ、「京都丹波キッズふれあい駅伝」や「京都丹波美術工芸教育展」を開催する等、幼小中高等学校の連携が地域にも定着しています。

また、子どもたちが心身ともに健全な成長を遂げ、人や社会とつながり、共に生きる心をはぐくむためには、就学前の子どもを持つ親への支援による家庭教育力向上や地域人材の活用による学校教育支援、様々な取組を通しての地域の活性化等、学校、家庭、地域が連携して、地域全体で子どもを守り育てる気運の醸成と、ネットワークの強化が求められています。

管内大学等の学生数

種類	学校名	学生数(平成26年6月現在)
4 大学	京都学園大学	2,719
	京都美術工芸大学	91
	京都医療科学大学	394
	明治国際医療大学	641
3 大学校	京都伝統工芸大学校	348
	京都建築大学校	1,205
	京都府立林業大学校	44
1 専門校	公立南丹看護専門学校	121
計		5,563

また、この地域にある京都学園大学、明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校、京都建築大学校、公立南丹看護専門学校及び京都府立林業大学校の高等教育機関に加え、京都大学附属牧場・フィールド科学教育研究センター森林ステーション芦生研究林、京都府立大学附属演習林等では、各教育機関がそれぞれ地域や行政とのかかわりを持つ等、“地域の専門教育機関”としての機能を発揮しています。

環境、ものづくり、建築、福祉、医療等様々な専門分野を有するこれらの教育機関をはじめ、行政や地元企業等が、相互連携の促進を図るとともに、若い人材を活用した地域おこしやまちづくり、地域人材の供給も含めた人材育成システムの構築等、産業振興策とも連携した施策を講じていく必要があります。

### ■ 企業の集積をはじめとした豊富な資源を人材育成にも活用

京都丹波地域の優れた自然環境や豊かな農林産物に着目して、食品製造業をはじめとするものづくり企業が数多く立地するとともに、新しい産業拠点への企業立地が進み、京都丹波地域ならではの産業集積が形成されつつあります。新規立地企業の誘致を促進するとともに、既存企業の増設支援等を通じ、企業の集積をいかした地域づくりや雇用機会の拡大、さらには口丹通学圏内ではじめて工業の内容を学習できる府立南丹高等学校総合学科テクニカル工学系列等の教育機関等と連携したものづくり人材の育成等にも取り組むことが必要です。